

# 学位取得の為の海外留学 (主要な留学先国と台湾) 比較表

～入門編～

※短期(1年以内)の語学留学は、学位が取得出来ないことやその後の就職の難しさ等によりお薦めできません。

国別	アメリカ	カナダ	イギリス	オーストラリア	マレーシア	台湾
項目	学費・レベルは主に地域により大きく異なる。SATも必要。	レベルが高いが、学費は低め	学費が非常に高い。ファウンデーション(専門学校)→大学が一般的	ファウンデーション(専門学校)→大学が一般的	英語力が足りない場合、ファウンデーション(専門学校)→大学が一般的	学費が非常に安く、設備が充実。アメリカ英語が主流
大学数	州立・私立計2,500校以上	公立約90校、私立2校	約100校のうち9割以上が国立	国立39校、私立2校	公立約20校、私立約120校	国立約50校、私立約80校
種類	・州立大学 ・私立大学 (7化・リーグ、9化・7化・7化) ・コミュニティカレッジ等	・国立大学 ・コミュニティカレッジ(2年制大学)	・国立大学 ・公立カレッジ ・ファウンデーション(公立専門学校)	・国立大学(私立2校のみ) ・ファウンデーション(公立専門学校)	・国立大学 ・私立大学 ・ファウンデーション(公立専門学校)	・国公立大学 ・私立大学
詳細	・州立:留学生は学費が高い。 ・9化・7化:留学生に優しく、少人数性、学費は高め。 ・コミュニティカレッジ:学費は安く、入学しやすい。寮が充実していない。 ※コミュニティカレッジから大学の編入が一般的。	コミュニティカレッジから大学への編入は一般的ではない。2つの州のみ編入制度有り。 入学難易度はアメリカの大学よりも高く、難関校はかりで卒業も難しい。	高校卒業後、大学で学べない一般教養や基礎のスタディスキルを学ぶファウンデーションコースからスタート。その後、大学(3年間)に入学する。(ファウンデーションを入れて計4年間)	高校卒業後、大学で学べない一般教養や基礎のスタディスキルを学ぶファウンデーションコースからスタート。その後、大学(3年間)に入学する。(ファウンデーションを入れて計4年間)	教育制度が日本と異なり、高校は2年間、その後ファウンデーションコースを経て大学(3～4年間)に進学する。政府や国際的に認められていない大学も多数ある。国立大学はマレー語で授業を行う大学も少なくない。留学生は主に私立大学を選択する。	All Englishプログラムや、応用英語学科等では4年間英語に特化した授業が行われている。一定レベルの英語力があれば、海外の姉妹校に安い学費で交換留学の機会が多数用意されている。
英語の種類	アメリカ英語が主だが、地域によってはイギリス英語に近かったり、強い訛りがある。地方によっては発音が異なるので、注意が必要。	アメリカ英語とイギリス英語の間で、発音はアメリカ英語に近いが、フランス語の影響を多く受け、地域によって多様性がある。	つづり、文法・語法、単語共に多少アメリカ英語と異なる。アメリカよりも地域による方言の差が大きい。	イギリス英語に近いオージーイングリッシュが主流。発音・語彙・言い回しなど、オーストラリア特有のものも多い。	イギリスの植民地だったため、アジアではシンガポール同様、英語能力が高い国家とされているが、発音はマレー語の影響を多大に受けている。	英語圏ではないが、特にアメリカ英語の教育に力を入れている。欧米からの教授陣がネイティブな英語を教えている。
大学レベル	大学間のレベルの差が大きく、都市部の大学は学費が高く競争も激しく、入学・卒業が比較的難しい。	どの大学もレベルが高く、大学間のレベル差が少ないので、日本人はよほど勉強しないと入学・卒業が難しい。	専門分野により得意・不得意な大学があるので、しっかり調査してから大学を選ぶ必要がある。	どの大学もレベルが高く、大学間のレベル差も少ない。有名校では現地学生でも1/3が落第や中退する。	世界大学ランキングベスト500にランクインする大学も2校あるが、法律によりイスラム教を信仰する学生を最優先するシステムである。	世界大学ランキングベスト500には11校ランクイン。大学間の差があるが、実践力が身に付く。
必要となる英語力	2年制: TOEFL iBT 45～(英検2級程度) 4年制: TOEFL iBT 61～(英検2級と準1級の間)	TOEFL iBT 83～(英検準1級程度)	IELTS 6.0～7.0(英検準1級と1級の間)	IELTS 6.0～7.0(英検準1級と1級の間)	TOEFL iBT 79～80 IELTS 5.5～6.0(英検準1級程度)	All English又は応用英語学科 TOEFL iBT 45～(英検準2級程度)
年間授業料	地方州立330～ 有名私立820万円	200～450万円 (州や大学によって大きな差がある)	250～800万円 (学部により大きな差がある)	275～500万円 (難易度の高い大学ほど授業料が高い)	国立60～私立150万円 (大学や学部により異なる)	40～60万円 (医学部は110～140万円)
年間寮費	140～250万円	90～220万円	65～190万円	80～280万円	40～170万円	6～40万円
年間生活費	250～450万円	150～350万円	250～400万円	200～280万円	50～70万円	40～60万円
奨学金	他国の留学生に比べると年収が高い日本人は、奨学金が支給しにくい。	大学では留学生のための奨学金は少なく、競争率も高い。自費留学が主流。	主に政府奨学金で、語学力や成績により審査されるので、競争が激しい。	大学では留学生のための奨学金は少なく、語学力や成績により審査されるので支給は難しい。	奨学金は学生の成績、英語力、年齢、宗教及び経済力により審査される。	留学生特別の給付奨学金があり、特に初年度は学費免除等の奨学金は支給率が高い。
寮の環境	ほとんどは学内にあり、二人部屋が主流。但し、絶対数が少ないので、順番待ちが必要な場合が多い。留学生にとって寮はそう簡単ではない。	シャワー・トイレが共同、男女の区別がない場合がある等、様々なスタイルがある。学外の寮もある。	建物は男女の区別が無いが、一人部屋が主流。バス・トイレ・キッチンが共有の場合が多い。学外の寮もある。	ほとんどは学内に近隣にある。食事がついていることが多い。通常2～3人部屋、トイレなどは部屋の外で共同の場合が多い。	学内に寮がある大学は少なく、学外のアパートに入居する場合が多い。主に2人部屋で、多くの部屋にはバス・トイレが設置されている。	留学生は入学時ほぼ100%寮可。男女別々で学内にあり、ほとんどが4人部屋。私立大学ではバス・トイレが部屋の中に備え付けられている所が多い。
治安	治安の良い地域と悪い地域が比較的ハッキリとしていて、全体では決して良いとは言えない。	窃盗、置き引き等は当然起きるものだが、凶悪犯罪は比較的に少ない。	スリや置き引き、ひったくり、ATMでの盗難等に注意が必要でない。	窃盗、置き引き等は当然起きるものだが、凶悪犯罪は比較的に少ない。	東南アジアでは安定している方だが、種族間の待遇が大きく異なり、治安面では注意が必要である。	日本と同等で、おおむね良好であるが、夜の一人歩きはやはり注意が必要がある。
食事情	肉が主流で野菜が少ない。量が多く、肥満に注意する必要がある。	シーフード料理は比較的日本人の口に合う。量が多いので、肥満に注意する必要がある。	フィッシュ&チップスとローストビーフが主食。味付けがされていない料理が多い。	多国籍の料理があるので、安心。食材も日本より安い。肥満に注意する必要がある。	多民族国家なので、マレー、中華、インド料理など様々です。亜熱帯なので辛い食べ物が多い。	台湾料理を主流とした、日本人の口に合う多彩な料理がある。
気候・環境	冬は最低-10～0℃前後 夏は最高30～35℃前後	冬は最低-10～-5℃前後 夏は最高20～25℃前後	冬は最低0～5℃前後 夏は最高20～25℃前後	冬は最低5～10℃前後 夏は最高20～25℃前後	亜熱帯なので、 年間21～34℃前後	冬は最低10～15℃前後 夏は最高33～37℃前後
医療費	年間約20万円前後の医療保険に加入義務があるが、制度が複雑。予想以上の医療費を自己負担しなければならぬ場合もある。	政府の保険には加入出来ない可能性が高い。民間の保険会社によってプランが異なるが、留学生は必ず保険加入の義務がある。(年間約10万円)	6ヶ月以上滞る留学生は国民保健に加入する義務があり、割引料金で治療を受けることができる。(18歳以上は年間約3万円)入院費用は実費。	留学生健康保険へ加入が年間約4万円。ほとんどの私立病院の請求金額は保険給付金を上回り、差額は自己負担。	国民保険制度は無いので、民間の海外保険(年間約3万円)に加入すれば自己負担が軽減可。日本では自己負担1回、1,000～1,500円、入院1日約3,000円。	6ヶ月間は留学生保険(月2千円)に加入し、満6ヶ月後から国民健康保険(年間約3万円)に加入。治療費は通院1回で500～600円、入院1回約3,000円。
対日感情	日本に対してあまり関心がないが、若干好意的な人が多い。	日本を良く知らないカナダ人でも対日感情は一般的にポジティブである。	日本に対してあまり関心がないが、若干好意的な人が多い。	日本は大切な貿易国なので特に問題無いが、捕鯨問題には敏感な人が多い。	ルッキースト政策の影響もあり、親日派の人が多い。	日本人には非常に好意的。日本文化にも興味・知識がある人が多い。
アルバイト	学生生なら1年目は校内のみ、2年目以降は需要によりインターンシップ可能。(週20時間以内)	公立大学、カレッジの正規留学に限り働くことができる。(校外は週20時間以内)	16歳以上の学位留学生は週10時間以内ならアルバイトが可能。	就労許可の申請をすれば、週20時間まで働くことができる。	学生ビザがあれば週20時間以内で可能だが、移民局への申請が必要で、就業先も限定される。	大学の許可を受ければ、1年次から週20時間まで働ける。 ・日本語の教師等がお薦め。
その他のメリット	・場所にもよるが、日本人の求めている正しい英語が身に付く。 ・世界的に有名な大学が多い。	・日本人の求めている正しい英語が身に付く。 ・自然が豊かで空気が綺麗。	・歴史あるヨーロッパ文化に触れることができる。 ・世界一流の大学が多い。	・大学間の単位移行等が可能。 ・米国や英国に比べると、物価がかなり安い。	・卒業後の編入で英・米の学位を取得できるプログラムもある。 ・日本では馴染みの浅いイスラム文化を理解することができる。	・台湾の学費で欧米の大学に交換留学することも出来る。 ・英語の他に中国語をマスターすることができる。
その他のデメリット	・統制が緩やかなため、トラブルに巻き込まれる可能性がある。 ・人種差別を受けることがある。	・冬が寒い。 ・国土が広いので、移動が大変。 ・車が無いと非常に不便。	・イギリス英語に慣れるまでに時間がかかる。 ・天候は曇りの日が多い。	・紫外線は日本の5倍以上 ・強い強い英語に慣れないといけない。	・イスラム教の影響でトイレ事情があまり良くない。 ・比較的保守的な社会で、民族間の差別も存在する。	・バイクが多く、空気が日本よりも多少汚い。 ・大学以外は、都市開発が遅れている日本の大企業より多くの人材募集活動に来ている。
就職事情	卒業生は日本の会社には適合できないことが多く、外資系企業への就職が主になる。そこでは英語が出来る人が多数いるので、英語力以外の専門技術を身に付ける必要がある。	卒業生は日本の会社には適合できないことが多く、外資系企業への就職が主になる。そこでは英語が出来る人が多数いるので、英語力以外の専門技術を身に付ける必要がある。	卒業生は日本の会社には適合できないことが多く、外資系企業への就職が主になる。そこでは英語が出来る人が多数いるので、英語力以外の専門技術を身に付ける必要がある。	卒業生は日本の会社には適合できないことが多く、外資系企業への就職が主になる。そこでは英語が出来る人が多数いるので、英語力以外の専門技術を身に付ける必要がある。	卒業生は東南アジアを主軸として活躍できる人材なので、一部の企業にとっては魅力的だが、マレーシアの大学は世界での認知度があまり高くない。為、学歴が認められない場合もある。	中華圏と関係のある企業では、英語・中国語両方出来る人材はどの企業でも必要としている。日本の大企業より多くの人材募集活動に来ている。

台湾の大学は、英語力の強化を目指す学生にも経済的で良質な環境を提供しています。